

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

「石の仏とは」

石でつくられた仏

すなち石造の「仏像」、信仰の「仏塔、供養塔など」、そして形態の「層塔、五輪塔など」を石でつくる。

具体的には「石を彫る」「石に刻む」ことである。

仏像とは、仏教で説かれたさまざまな尊像（各種の如来・菩薩・明王・その他）の総称としてわが国では理解されている。

今回は岩・石を用い、刻まれた仏たちを紹介します。まず最初に

Q: 磨崖仏と独立仏の違い

A: 磨崖仏（まがいぶつ）とは野外に露出した岩面洞窟内の壁面に仏像を刻み付けたものを磨崖仏と呼んでいる。

Q: 岩に刻まれた仏（磨崖仏）と、石に刻まれた仏（独立仏）の違いは

A: 人の手で動かせないものが岩で、動かせるものが石とされている。

Q: しかし、これは動かす人によって岩と石が変わってしまうことになるのでは。

A: そのとおりですが、もう少し考えてみよう

地面について動かないものが岩で、あきらかに人の手では動かせない大きさを有し、人為的ではなく、自然にある地盤に付いているものです。石は地盤から離れ、人の手で刻まれた仏で動かせるもの。

Q: 考古学的にみれば、遺構と遺物に例えれば

A: 人間が残した痕跡のうち、動かすことのできないものが遺構です、**岩**に例えます。

遺物（いぶつ）とは、過去の人類が残した 土器 や石器 などの動産的なもの（動かすことのできるもの）のである。

石に例えます。



磐船御神体(磨崖)



阿弥陀三尊(磨崖)



郡門(郡津)刻銘(独立) 阿弥陀(独立)

石造物を大きく分類し、交野に存在するものをひろいあげました(一部)。

=像容の部=

【如来】

釈迦如来・阿弥陀如来・大日如来・聖観音



阿弥陀如来

木彫みたい、素晴らしいノミの跡

【菩薩】

聖観音・**三十三観音**・如意輪観音・弥勒菩薩・地藏菩薩・六地藏



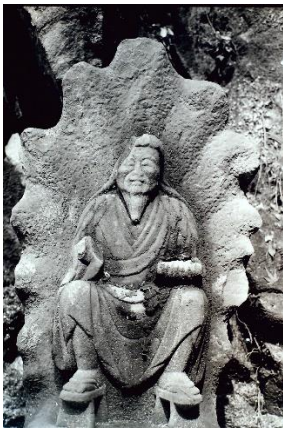
三十三観音菩薩



大峯山碑（現在は私墓地入口）

【明王】

不動明王・**三宝荒神**・**役行者**



役行者



三宝荒神所願成就碑



庚申塔



水の神

=形態の部=

層塔・**宝篋印塔**・五輪塔・無縫塔・笠塔婆・板碑・石塔・石灯籠・石棺物・石室・鳥居・町石・手洗石・狛犬・石橋

=信仰の部=

十三仏・名号塔・**伊勢講碑（大神宮）**・金毘羅大権現・愛宕講・**大峰講（三十三度記念）**・**庚申塔**・**水神**・三界万霊・無縁塔・道標・結界石・力石



十三仏



太神宮



層塔



宝篋印塔

今回の紹介は一部です、交野の石仏は面白い